

# 12月の生活表

2023年12月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：喜びあう

保育日数（19/14日）

月目標：<3歳児>

\*イエスさまが私たちのためにお生まれになったことを知り、喜ぶ。

\*遊びを通して、友だちと心をつなげる経験をする。

\*寒さの中でも戸外で体を動かすことを喜ぶ。

<4・5歳児>

\*イエスさまが私達のためにお生まれになったことを喜びあう生活をする。

\*日常生活の中でクリスマスの喜びを表現すること、分かちあうことを経験する。

\*鬼ごっこやルールのある遊びなど、寒さの中でも戸外で身体を動かすことを楽しむ。

いよいよ師走になりました。コロナ以降、日常の生活が戻ってきたからか、こんなに日々が早く過ぎてしまうと感じるのは？はたまた歳の関係か。いずれにしても一年の幼稚園行事を迎え、終えていくことの速いこと。つくづく日々の時間を大切にしなければと思います。

私たちの大好きなクリスマスがやってきます。クリスマスといえば、神様のお独り子であるイエス様のお誕生日ということは、当園の園児はよ～く知っています。でも、幼稚園にいる時は、そう思い、家に於いてはサンタクロースの存在が大きいのでしょうね。赤ちゃんのお誕生、また自分のお誕生日にはプレゼントがつきものですから。子どもたちにとっては、プレゼントに特化されるかもしれません。でも、そこに在る気持ちに触れてみて欲しいのです。イエスさまは、私たちのためにお生まれになりました。といってもどういうこと？となるのでしょうか。緑組のページエントの説明にこんなくだりがあります。説明1に「神様を知らないで、悪い事をしたり、間違ったことを考えたり、苦しんだり、悲しんだりしている人たちを救うためです」と。私たち人間は、誰でも失敗することがあり、人を羨ましく思ったり、意地悪してしまったり、その時の自分の気持ちで親切にしてあげられなかったり、また無意識のうちに暴言を吐いたり、大好きが故に必要以上にちょっかいをかけてみたり・・・挙げてみればキリがありません。人間の言動の愚かなこと。大人は気が付きながらもそのような言動に出ることもありますね。でも、今私たちがお預かりしている子どもたちは、まだまだ、まだまだ素直で無垢で可愛いものです。だからこそ、この時代に、この年齢で、しっかり規範意識を備えてあげなければいけないと考えます。自由な中での子どもの育ちも必要であれば、設定保育の中で全員に通じるようなお話も必要なのです。もし、この年齢で、将来生活していく為のさまざまなルールが教えてもらえず、触れることがなければ、我慢ができない、迷惑が迷惑であるということがのがことがわからないまま、大人になったら、風潮に流されたりしたら・・・と思うと恐ろしくなります。お友だちの言動を見て、自分に置き換えて、自分ならどうする、どう考えるという経験や体験をして欲しいと思います。何より、そういうことを考えるという場に居合わせて欲しいものですね。子どもたちの日々が損なわれず、その周りの大人も反省を含めて穏やかな気持ちでクリスマスをお迎え致しましょう。

## 《チャプレンコーナー》

年主題：つながって ～今、わたしを生きる。～

年聖句：12月月間主題：喜びあう

月聖句：月聖句：一人の男の子がわたしたちに与えられた。

(イザヤ書 9：5)

先日、幼稚園の手洗い場で、子どもに声をかけられました。「先生は緊張しない？」2, 3言葉を交わしてみても、それが、感謝祭の発表で緊張しないか、という意味だと分かりました。「先生は、いつも通りお祈りするだけだから、緊張しないよ。」「それでも、いつもと違ってお家の人がたくさん来るから、緊張しない？」この子は、自分の発表を前に、とても緊張しているようです。子どもたちにとって、一つ一つの出来事は、全て初めての経験で、喜びも、緊張も、とても大きいのでしょう。それに対して私は、「毎年行う行事の一つ」という意識が強く、緊張しない代わりに、成長もあまりありません。

「もういくつ寝るとお正月」の歌のように、子どもの頃は一つ一つの出来事が、待ち遠しく、時間の経つのが遅いものです。ある学者さんの研究によると、18歳くらいに自分の体内時計と現実の時間とが一緒になり、それ以降は、どんどん「時間が早く過ぎる」と感じるようです。

聖書の中の人々は、大人になっても時間の進み方が早くなかったようです。

「救い主」がこの世界に来られることを、今か今かと、待ち望んでいました。それも何世代にもわたって。預言者イザヤは、紀元前8世紀に活躍していました。当時ユダヤの国は、隣国のアッシリアから攻められ、存亡の危機に立っていました。その中で、一人の子どもとして降臨される救い主の誕生を預言しました。彼の預言はなかなか実現しませんでした。それが実現したのが、紀元元年、イエス様の誕生でした。それまで何百年ものあいだ、人々は飽くことなく、ずっと待ち続けていたのでした。

クリスマスの準備が始まります。子どもたちは、楽しみにしてクリスマスの時を待ちます。私たちも子どもたちと共に、待ち望みたいと思います。

## おたんじょうび おめでとうございます

### ＜生活指導＞

☆自然の移り変わりに目を留めてみましょう

- ・風の冷たさ、音、樹々の変化、山の色の变化、登降園途中の様々な発見を大切にし、冬の訪れを感じてみましょう。

☆自分で出来る事は自分でやってみましょう。

- ・上着を着る機会が多くなります。ジャンパーのボタンやファスナーが自分で出来るように練習してみましょう。出来ない時にはお手伝いをしてあげましょう。
- ・『○○して下さい。』とのお願いのことばを添えて。
- ・自分の持ち物は自分で整理整頓しましょう。脱いだあとの服の始末（たたむ・フックに掛ける・ハンガーにかける等）、鞆を一定の場所へ・・・幼稚園へは上着を着たまま保育室に上がらせて下さい。たたむ練習をしています。

☆健康管理に留意しましょう。

- ・インフルエンザに備え、帰宅後の手洗いをしっかりと洗いましょう。
- ・暖房器具が活躍する季節になりました。換気と乾燥に気をつけましょう。
- ・子ども達の肌の感覚（汗をかく、冷たい風に当たる）を養いましょう。

☆家の中で、お手伝いをさせましょう。

- ・年末には、子ども達も家族の一員として子どもが出来る範囲のお手伝いをして、責任が果たせるように話し合ってみましょう。（雑巾がけ＝絞る、たたむ、掃く＝クリーナーor箒と塵取りの使い方＝物をのけて掃除する、トイレ掃除＝綺麗に使う 等々）
- ・お手伝いの様々な内容により、その方法や要する時間等、年齢や場面に合った臨機応変さも含めてのお手伝いを考えてみましょう。
- ・楽しいお手伝いになる事も大切です。そのためには、大人からの感謝を伝え、時にはお駄賃（ご褒美）も良いのかもしれない。

☆年末年始には、隣近所の方としっかりご挨拶が交わせるようになりましょう。

☆年賀状を出し合ってみましょう。

- ・年賀を通して、その人の事を思い、また年齢（3～5歳）や個人（個々の園児）に応じ、年号・干支（子年）・字・数字・電話番号・自分の住所等に興味関心を持つ機会となりますように。（自分が住んでいる地名、祖父母の姓名は？）

☆お年玉について話し合みましょう。

- ・お金の種類・価値・使い方等について、子ども達に知らせてみましょう。

☆冬休みにもお祈りを忘れずに

- ・年末には、1年間の神様のお守りに感謝し、年始には1年間のお導きお守りをお願いしましょう。（家族の為、お友だちの為、社会情勢や自然事象について、様々な事を・・・）

## <クラス担任より>

### [花組]

秋の深まりを感じて心穏やかにほっこりしていたのも束の間...朝晩の冷え込み、冬です。そして！心躍るクリスマスです。感謝祭では子どもたちの成長した姿をご覧いただくことが出来ました。沢山の保護者の皆様から嬉しいご感想のお言葉やお便りをいただき、子どもたちの可愛らしくも一生懸命な姿がしっかりと届いたことが大変嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。感謝祭の子どもたちの姿から、「うん！クリスマスページェントも大丈夫！」と期待が膨らむと同時にどこかほっと安心しています。甘えん坊の花組さん、幼げな花組さん、心の凸凹を上手く表現出来ずに涙が出たり、先生から離れられなかったり...そんな花組の子どもたちが、一人ひとりそれぞれの持つ力を目一杯に使って、行事を一つ乗り越えられたこと。それは、しっかりとそれぞれの糧になっていると実感しています。本番のその日だけお客様に良いところを見せる為の行事ということだけではなく、行事にむかってゆく過程、導入から準備に費やす大切な設定保育、そして、練習。緊張感を感じて、積み重ねる経験から得た達成感。ご自分の大切な一つ一つのお役をしっかりと受け止めて努める。小さな身体で沢山の思いを抱き、感じながら取り組みました。一言のお言葉（台詞）に小さな胸がとてつもなくドキドキしたこと。その姿に涙が出る程に愛おしさを感じたこと...そんな今を心に留めて、花組で迎える『クリスマスページェント』がどのような喜びで溢れるのか、そして...赤組、緑組へと繋がってゆくということを想像すると、更に心が躍ります。

2学期は様々な行事が目白押しで忙しく、朝の自由遊びの時間も練習が本格的になってくると短くなります。しかし、限られた時間の中でも子どもたちは本当にしっかりと遊んでいます。一人ひとりの興味関心、好きな遊びを大切に、そこにお友だちとの交わりがあり、関わりが生まれていきます。おままごとのテーブルに沢山並んだご馳走の数々、マグネット積み木で作った車がどんどん大きくなって一人また一人とお友だちが加わり、気が付けば「新幹線になった！」と規模が拡大!! 一人がはじめた塗り絵に興味を持ち、pre-preちゃんまで加わって、気が付けば机をズラーと並べて塗り絵大会さながらです。そして、感心すべきはここ最近のお片付けの素早さ、正確さです。お片付けのピアノが聞こえたら、あっ！とみんなお片付けに向かいます。この時、まずはご自分が遊んで使っていたものから、それが片付くと、「次はどこ!!」とキョロキョロ見回して、先生の「おままごとコーナーお手伝いお願いしま〜す！」にみんな集まり、コップはここ、赤ちゃんのお洋服はここ、洗濯ハサミはここ（密かに色々なところで大活躍

の遊び道具です！)、とあっという間にお片付け完了！これにはここ最近本当に感心しています。『クリスマスページェント』の練習が始動し、花組さんだって本真剣に取り組んでゆきます。そんな園での1日の中で遊びの時間が短くなってもその内容が有意義であるように子どもたちの姿をしっかりと受け止め、寄り添いながら残された2学期を大切に過ごしてゆきたいと思います。

「神はその独り子を賜ったほどに、この世を愛してくださった」イエス様が私たち一人ひとりのためにお生まれくださったことを心に覚えて、「喜びあう」クリスマス。クリスマスを迎える心のご準備、アドヴェントの期間からみんなで愛の光を輝かせて嬉しいクリスマスをお迎えしたいと思います。最後になりましたが、保護者の皆様には沢山のご理解とご協力を賜り、大切なお子様をマリアへと毎日お送りいただきましたこと心より御礼申し上げます。そして、いつも私たちをお守りお導きくださる神様に感謝し、皆様の上に神様の豊かな御恵みと御導きがありますことを心よりお祈り申し上げます。

Merry Christmas and Happy New Year

### 【赤組】

京都の紅葉は美しく、毎年街中を見ると、赤、黄、緑色の美しい樹と地面のコントラストで本当に綺麗な光景です。「今年は色づいた葉っぱを愛でる前に暑さのせいでしょうか、焼き切ってしまうたり散ってしまうたりして少し残念です。それでも子どもたちはしっかりと季節の変化に目を向け、感じ、その喜びや楽しみを見い出しています。」先日「真如堂」へお散歩に行きました。「見てー！」と色や模様、形など様々な葉っぱが私の目の前に現れます。どれもその子がお気に入りになったものばかりです。

「この点々が面白いんだ〜」「ハートっぽい形あったよ」「どこどこ〜？」「おむすびころりんの穴があったから来て！」など、感性豊かな子どもたちと共に過ごしているからこそ、そこに落ちている落ち葉が、団栗が宝物に変わって、普段ならが見逃してしまいそうなことも見えたりするのですね。子どもたちの感性を大事にしながら私も共に感じ、その四季折々のお恵みに心から感謝したいと思います。

最近の赤組さんは、今まで自分のことで精一杯だったことが少しずつ周りを気にするようになってきたと感じます。お友だちが身近に感じるようになり「気になる存在」になったことで少々強めの口調で気になったことを伝える姿が多かったのですが、優しく伝えたり、教えてもらおうと素直に「ありがとう」と言える心に育ってきています。また、感謝祭でのリズムバンドで、赤組さんは花組さんのお世話をするという役目を担っていました。初めて3クラス合同で練習をした時からずっと最後まで、それぞれ隣の花組さんを心配し「出来た？」と少し腰を屈めて視線を合わせて聞いていたり、必ず先に花組さんの準備のお手伝いしてからご自分の準備をしている子、チラッと隣をみて

「(持ち方) 反対だよ」と気がついて教えてあげたりするなど、沢山の気遣う姿が見られました。きっと自分たちがしてもらった経験があるからこそだろうと思い、まさしく縦の繋がりだと感じる瞬間でした。また、1つ大きい緑組さんとの縦の繋がりを感じる瞬間もありました。クラス便りでもお知らせしていますように縄跳びをプレゼントしま

した。緑組さんが取り組んでいるのを知っているからこそ自然と緑組さんとの関わりが生まれます。「こうして練習するんだよ」と教えてもらおうと最初こそ縄跳びが嬉しくて聞く耳をもたないようでしたが、数日後には「こうするの？」と聞いて教えてもらいながら「緑組さんすご！」という声まで聞こえるようになりました。縄跳びだけでなく、普段から緑組さんを意識し始め、それが「すごい」「かっこいい」と憧れになり、自分たちの進級への気持ちへと繋がり始めていると思います。

進級を前に、12月には、聖マリア幼稚園の大切な行事で、子どもたちが心を一つにして一緒に作り上げる「クリスマスページェント」が行われます。その準備が先週末から始まりましたが、始まる前から「ページェントで赤組さんがするのって何て言うのだったけ？」と頭はクリスマスページェントへ切り替わっていたり「く～しきほ～しよ」と歌い始めている子もいて驚きでした。赤組さんの時にしかできない赤組さんの大事なお役は「聖歌隊」で、ページェントの一番初めに赤組聖歌隊が入堂します。物語と場面の間で2.3人ずつのペアに分かれて登場し、歌でその場面を伝える大切なお役です。入堂では「みぎ・トン、ひだり・トン」（オルガンのテンポに合わせてながら右足を出して、合わせる、左足を出して合わせる、）の歩き方です。歌いながら、いつもと違って気をつけて考えながら歩くということは子どもたちにとって困惑して難しいことだと思いますが、必死になって諦めずに歩こうとしています。自分たちの担う聖歌隊に前向きな気持ちで取り組もうとし、綺麗な声をもっている赤組さんなら、きっと素敵な歌声をお礼拝堂に響かせてくれるのではないかと思います。クリスマスページェントを通して、互いに喜びを分かち合い、そして、イエス様のお誕生をみんなの愛の光でいっぱい満たすことが出来ますように。

2学期最後の1ヶ月となりました。2023年の締めくくりの月、最後まで嬉しく楽しい幼稚園となるようにしていきたいと思います。

## 【緑組】

小学生のころ、ピアノのレッスンに行きたくなかった私は「行ってきます」と家を出て、そのまま行方をくらましたことがあります。レッスン終了時間まで、用事もないのに放課後の学校にまで出かけ、校庭の時計を確認し、さもレッスンを受けてきたかのような顔で「ただいま」と家に帰りました。そもそもピアノの先生のお宅は、我が家のすぐ裏。普通に考えても、時間に来ない生徒があれば、すぐに自宅に連絡がいくでしょう。おまけに幸か不幸か？姉が、レッスンバックをもって目的地と異なる方向へ歩いていく妹の姿を見ていて、そのままその情報は母へ伝わっていたのです。そこへ、平然とレッスンに行かずに帰ってきた私を母はどんな思いで迎え入れたのか...否、迎え入れられた訳ではありません。玄関に上がることもできませんでした。大体、私が考え出した浅はかな考えが、大人に通じる訳がないのは、今となってはわかります。でも...当時の私は「必死」だったのです。練習をせずにレッスンに挑む気まずさ、叱られることへの恐怖心...出来ることなら逃げたい...そして、練習できなかったのは私のせいではないという「責任転嫁」と「必死さ」が生み出した「嘘」。大人が見破っ

てくれた「嘘」。結局そんな「言い訳」や「嘘」をついても、自分に返ってくるということを、この時はっきりと自覚しました。「嘘」や「言い訳」は自分を正当化するためと同時に「自分を認めて欲しい」という自己顕示欲の表れでもあると思います。でも、それは慣れた環境、信頼する人に対してできることです。2学期を終えようとする今、それぞれの子どもたちがそれぞれにぶつかっている壁があることを承知しています。おそらく成長の過渡期に差し掛かり、各々が友達を通して、自分と葛藤しているのです。「なりたい自分」が明確にならない、一方で友達の姿に「〇〇のように思われたい」「良く思われたい」という気持ちのせめぎ合いのなかで、立ちすくみ、地団太を踏み、思いあぐね、号泣し、頑なに自分を押し通したい！という願望を、全員が抱えています。ならば、今のうちに大いに自分とぶつかり、今のうちに自信をつけておくべきです。幼稚園で経験したこと以上の刺激が、戸惑いが小学校に行けば待っています。だからといってきれいすっきり、個々が抱えている問題が解決するとは思いません。ただ...これから迎えるクリスマスは、そんな子どもたちの挑戦になるはずです。自分を必要以上に良く見せようとしなくてもいい、うまく出来ないで泣く姿があってもいい、叱られ、注意され頑なになるちょっと情けない自分を見られてもいいのです。そんなちょっと弱くて、間違いだらけで、ちょっと頼りない「私」があっても「大丈夫」と助けてくれる友達がいてくれるという確かな「信頼」と「感謝」が生まれることを期待しています...

世界は...殺伐とし矛盾の矛先が子どもたちを巻き込み、「平和」とは程遠い悲しいニュースに目を逸らし、耳に蓋をしてしまう。矛盾の答えを探していると、新たな矛盾に出遭ってしまう。なんだか、本当に心が萎えてしまいそうな毎日のなかで、やっぱり「光」なのは「子ども」の存在です。幼稚園にきて子どもが笑っているという日常はやはり明るいのです。世の中を照らす「光」が輝くクリスマス。今年も皆さんと共に、子どもたちが照らす光に導かれ、あたたかなクリスマスになりますように...。 一足早く

☆ Merry Christmas and Happy new year ☆